

茨城県教育財団文化財調査報告第186集

# 樋の沢久保遺跡

一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設工事地内  
埋 藏 文 化 財 調 査 報 告 書

平成14年3月

国土交通省 常総国道工事事務所  
財団法人 茨城県教育財団

# ひさわくぼ 樋の沢久保遺跡

一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設工事地内  
埋 藏 文 化 財 調 査 報 告 書

平成14年3月

国土交通省 常総国道工事事務所  
財団法人 茨城県教育財団

## 序

首都圏中央連絡自動車道（圏央道）は、都心からおよそ半径40～60kmの位置に計画されている総延長約300kmの自動車専用道路で、横浜、厚木、八王子、川越、成田及び木更津などの中核都市を相互に結ぶことにより、首都圏に地域の核となる都市群を形成します。

また、県内において圏央道の通過する県南、県西地域は、国際研究学園都市「つくば」を中心に、首都機能の一翼を担う地域として現在多くのプロジェクトが進められており、圏央道の建設がこれらの地域の発展に大きく貢献することが期待されています。その予定地内には埋蔵文化財包蔵地である樋の沢久保遺跡が確認されております。

財団法人茨城県教育財団は、国土交通省常総国道工事事務所と埋蔵文化財発掘調査についての委託契約を結び、平成12年4月から5月まで樋の沢久保遺跡の調査を実施いたしました。この調査によって貴重な遺構、遺物が確認され、郷土の歴史を解明する上で多大な成果をあげることができました。

本書は、樋の沢久保遺跡の調査成果を収録したものであります。本書が学術的な研究資料としてはもとより、郷土への理解を深めると共に、教育、文化の向上の一助として広く活用されますことを希望いたします。

なお、発掘調査及び整理作業を進めるにあたり、委託者である国土交通省常総国道工事事務所から賜りました多大なる御協力に対し、深く感謝申し上げます。

また、茎崎町教育委員会をはじめ、関係各機関及び関係各位から御指導、御協力を賜りましたことに対し、衷心より感謝の意を表します。

平成14年3月

財団法人 茨城県教育財団

理事長 斎藤 佳郎

## 例　　言

1 本書は、国土交通省常総国道工事事務所の委託により、財団法人茨城県教育財団が平成12年度に発掘調査を実施した茨城県稲敷郡笠崎町大字鍋の沢に所在する鍋の沢久保遺跡の発掘調査報告書である。

2 当遺跡の発掘調査期間及び整理期間は、以下のとおりである。

調　査 平成12年4月1日～平成12年5月31日

整　理 平成13年4月1日～平成13年5月31日

3 当遺跡の発掘調査は、調査第一課長阿久津久の指揮のもと、調査第1班長海老澤稔、主任調査員小澤重雄、大間武が担当した。

4 当遺跡の整理及び本書の執筆・編集は、整理第一課長川井正一の指揮のもと、主任調査員茂木悦男が担当した。

5 発掘調査及び整理に際し、御指導、御協力を賜った関係各機関並びに関係各位に対し、深く感謝の意を表します。

## 凡　例

1 当遺跡の地区設定は、日本平面直角座標第K系座標を原点とし、X軸 = +2,200m, Y軸 = +27,404mの交点を基準点（A 1a1）とした。

調査区は、この基準点を基に遺跡範囲内を40m四方の大調査区に分割し、さらに、この大調査区を東西、南北に各々10等分し、4m四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い、北から南へA, B, C…, 西から東へ1, 2, 3…とし、「A 1 区」、「B 2 区」のように呼称した。大調査区内の小調査区は、北から南へa, b, c…j, 西から東へ1, 2, 3…0とし、名称は大調査区の名称を冠し、「A 1a1区」、「B 2b2区」のように呼称した。

2 遺構、遺物、土層に使用した記号は、次のとおりである。

遺構 土坑 - SK 溝 - SD 井戸 - SE

遺物 士器 - P 上製品 - DP 石器・石製品 - Q 金属製品 - M 拓本記録上器 - TP

土層 振乱 - K

3 遺構・遺物の実測図中の表示は、次のとおりである。

● 土器

□ 石器・石製品

△ 金属製品

4 土層観察と遺物における色調の判定は、『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業株式会社）を使用した。

5 遺構・遺物実測図の掲載方法については、次のとおりである。

(1) 遺構全体図は300分の1、各遺構の実測図は60分の1の縮尺で掲載することを基本とした。

(2) 遺物は、原則として3分の1の縮尺で掲載した。種類や大きさにより異なる場合もあり、それらについては個々に縮尺をスケールで表示した。

6 「主軸方向」は、長軸（長径）方向とし、その主軸が座標北からみて、どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した。（例 N-10°-E）

7 土器の計測値は、口径 - A 器高 - B 底径または高台（脚）径 - C とし、単位はcmである。なお、現存値は（ ）で、推定値は〔 〕を付して示した。

8 遺物観察表の備考欄は、土器の現存率、写真図版番号及びその他必要と思われる事項を記した。

9 遺物番号については、土器、拓本のみ掲載の土器片、土製品、石製品、金属製品ごとに通し番号とし、挿図、観察表、写真図版に記した番号は同一とした。

10 遺構一覧表における計測値は、現存値は（ ）で、推定値は〔 〕を付して示した。

# 抄 録

ふりがな	ひのさわくばいせき								
書名	樋の沢久保遺跡								
副書名	一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設工事地内埋蔵文化財調査報告書2								
卷次									
シリーズ名	茨城県教育財團文化財調査報告								
シリーズ番号	第186集								
著者名	茂木悦男								
編集機関	財團法人 茨城県教育財團								
所在地	〒310-0911 茨城県水戸市見和1丁目356番地の2 TEL 029-225-6587								
発行機関	財團法人 茨城県教育財團								
所在地	〒310-0911 茨城県水戸市見和1丁目356番地の2 TEL 029-225-6587								
発行日	2002(平成14)年3月25日								
ふりがな 所 取 遺 跡	ふりがな 所 在 地	コード 市町村番号	北 緯	東 経	標 高	調査期間	調査面積	調査原因	
樋の沢久保遺跡	茨城県福 敷郷基崎 町大字樋 の沢字久 保119番 地ほか	08445   49	36度 1分 3秒	140度 8分 27秒	19 ~ 21m	20000401 ~ 20000531	1,060m <sup>2</sup>	一般国道468号首都 圏中央連絡自動車道 新設工事に伴う事前 調査	
所 取 遺 跡 名	種 別	主な時代	主な遺構		主な遺物			特記事項	
樋の沢久保遺跡	屋敷跡	中・近世	井戸跡 溝	1基 1条	土師質土器、陶器(碗・皿), 磁器(碗・皿・猪口), 泥面 子, 瓦, 石製品(石臼), 古銭(寛永通寶・文久永寶)				
	その他	旧石器			剥片			近世を中心とする屋 敷跡と考えられる。 溝跡, 井戸跡などか ら九州や瀬戸・美濃 系の中・近世の陶器 が多量に出土して いる。	
		縄文			繩文土器(深鉢), 石器 (石鏡)				
		古墳			土師器(壺・甕)				
		不明	土坑 井戸跡	20基 1基	石製品(砥石), 鉄製品 (釘・鎌・刀子), 銅製品 (鐘管), 鉛製品(鉛砲玉), 鉄滓				

# 目 次

序

例 言

凡 例

抄 錄

第1章 調査経緯 .....	1
第1節 調査に至る経緯 .....	1
第2節 調査経過 .....	1
第2章 位置と環境 .....	3
第1節 地理的環境 .....	3
第2節 歴史的環境 .....	3
第3章 調査の成果 .....	7
第1節 遺跡の概要 .....	7
第2節 基本層序 .....	7
第3節 遺構と遺物 .....	9
1 中・近世の遺構と遺物 .....	9
(1) 井戸跡 .....	9
(2) 溝 .....	12
2 時期不明の遺構と遺物 .....	21
(1) 井戸跡 .....	21
(2) 士坑 .....	21
3 遺構外出土遺物 .....	26
第4節 まとめ .....	28
土坑一覧表	
写真図版	

# 第1章 調査経緯

## 第1節 調査に至る経緯

国土交通省は、茨城県稲敷郡基崎町樋の沢地区において、一般国道468号首都圏中央連絡自動車道の建設を進めている。

平成10年1月7日、建設省関東地方建設局常総国道工事事務所長から茨城県教育委員会教育長あてに、一般国道468号首都圏中央連絡自動車道建設事業地内における埋蔵文化財の所在の有無とその取り扱いについて照会があった。

平成10年4月20日、茨城県教育委員会は基崎町樋の沢地区的現地踏査を実施した。その後、平成11年2月1日、3月1・2日、平成12年2月2～4日に試掘調査を実施した。平成12年2月10日、茨城県教育委員会教育長から建設省関東地方建設局常総国道工事事務所長あてに、一般国道468号首都圏中央連絡自動車道建設事業地内に樋の沢久保遺跡が所在する旨回答した。

平成12年3月13日、建設省関東地方建設局常総国道工事事務所長から茨城県教育委員会教育長あてに、一般国道468号首都圏中央連絡自動車道建設事業地内における埋蔵文化財（樋の沢久保遺跡）の取り扱いについて協議書が提出された。

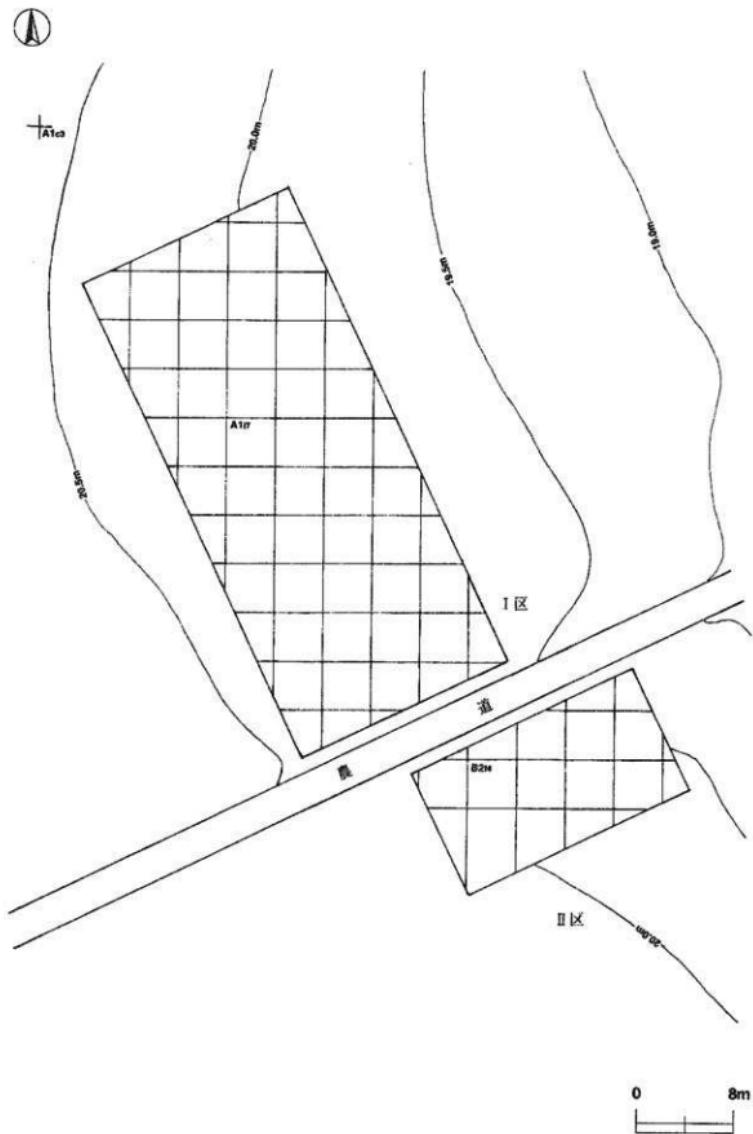
平成12年3月21日、茨城県教育委員会教育長から建設省関東地方建設局常総国道工事事務所長あてに、樋の沢久保遺跡について、記録保存のための発掘調査を実施するよう回答した。調査機関として、財団法人茨城県教育財團を紹介した。

建設省関東地方建設局常総国道工事事務所と茨城県教育財團は、埋蔵文化財発掘調査に関する業務委託契約を結び、平成12年4月1日から5月31日にかけて、樋の沢久保遺跡の発掘調査を実施することとなった。

## 第2節 調査経過

樋の沢久保遺跡の調査は、平成12年4月1日から平成12年5月31までの2か月間実施した。以下、調査の経過について、その概要を表で記載する。

項目	4月	5月
調査準備	■	
試掘	■	
表土除去及び遺構確認		■
遺構調査		■
遺物洗浄及び注記作業写真整理	■	
補足調査及び片付け		■



第1図 植の沢久保遺跡調査区設定図

## 第2章 位置と環境

### 第1節 地理的環境

橋の沢久保遺跡は、茨城県稲敷郡基崎町大字橋の沢字久保119番地ほかに所在し、東は牛久市、北はつくば市に隣接している。

地勢は、標高23m前後の筑波稲敷台地と呼ばれる平坦な台地となっている。この台地は西を小貝川、東を桜川と南流する河川によって区切られ、その流域には沖積地が発達し、両河川の間には東から花室川、小野川、基崎町の中央部を流れ牛久沼に注ぐ福荷川、東谷田川などの中小河川がほぼ北から南に向かって流れている。筑波稲敷台地は、茨城県南部から千葉県北部に広がる常緑台地の一部であり、地質的には新生代第四紀更新世に形成された層が基盤となっている。地層は下層から竜ヶ崎砂礫層、常緑粘土層、関東ローム層が順次堆積している。基崎町の台地は、ほぼ並行する福荷川、東谷田川、西谷田川などによって形成され、小丘や上岩崎にある二つの細長い半島状の台地が東西に広い台地の間を北から南へ牛久沼に向かって延びている。

当遺跡は、小野川右岸の標高20~21mの台地の縁辺部に位置している。

台地は、2~3mの比高をもつて小野川の流れる沖積地に臨んでいる。台地上はほぼ平坦であり、遺跡はこの台地の東側に立地している。遺跡周辺の土地利用状況は、主として宅地・畠地・平地林であり、小野川流域の沖積地は主に水田として利用されている。遺跡の現況は、畠地であった。

### 第2節 歴史的環境

橋の沢久保遺跡が所在する地域は、小野川、福荷川水系によって開拓された台地上に位置し、数多くの遺跡が存在している（第2図）。ここでは、小野川、福荷川流域の遺跡を述べることにする。

旧石器時代の遺跡は、基崎町の大井五十塚古墳群内遺跡（39）、下岩崎泊崎城跡、小山台貝塚、牛久市のヤツノ上遺跡（4）、中久喜遺跡（5）がある。ヤツノ上遺跡、中久喜遺跡からは、ナイフ形石器・網片が出土している。

縄文時代の遺跡は、大小河川の流域及び牛久沼沿岸の台地上に20か所以上確認されており、貝塚も9か所が周知されている。基崎町の小塙貝塚（10）、天宝暮C遺跡（12）は中期の大遺跡である。縄文時代の遺跡は、早期には数が少なくかつ小規模で、中期には数が増加し、後期には安定して貝塚が形成され、晩期には数が減少する傾向にある。

古墳時代の遺跡は、福荷川、小野川沿い及びその周辺に多くの古墳群が確認されている。発掘調査された古墳群は、前述した大井五十塚古墳群があり、前方後円墳2基、円墳9基以上から形成されており、第5・8・10号墳について調査が実施されている。時期は、6世紀後半頃と推定される。集落跡は、この周辺では18遺跡ほど確認されている。調査が行われているものは少なく、不明な点が多いが、ヤツノ上遺跡、中久喜遺跡、中下横遺跡（38）、隼人山遺跡（37）は中期後半、馬場遺跡（16）は中期から後期にかけての集落跡である。

大和政権による全国統一、大化の改新、そして大宝律令の発布によって全国の地方制度は国・郡・里制に改められた。基崎町は、郡成立以前は筑波の国の一郡であったが、その後町の中央部を流れる福荷川と基崎町と牛久市の境界を流れる小野川周辺は常陸國河内郡に編入された。律令期の遺跡は、調査されたものが少



第2図 植の沢久保遺跡周辺遺跡分布図（谷田部・土浦・藤代・牛久）

表1 横の沢久保遺跡周辺遺跡一覧表

番 号	遺 跡 名	時 代					番 号	遺 跡 名	時 代						
		旧 石 器	繩 文 器	弥 生 文	古 墳 生	奈 世			旧 石 器	繩 文 器	弥 生 文	古 墳 生	奈 世	中 世	近 世
1	横の沢久保遺跡	○	○	○		○	○	25	駒形遺跡			○			
2	樅岡遺跡					○	○	26	樅内遺跡			○			
3	下大井遺跡	○	○	○	○	○	○	27	下横場遺跡			○			
4	ヤツノ上遺跡	○		○	○			28	新牧田遺跡			○			
5	中久喜遺跡	○		○	○			29	北中島遺跡			○			
6	中山鹿島遺跡	○						30	大久保遺跡			○			
7	菅間遺跡	○						31	行人田遺跡			○	○	○	
8	孝学院遺跡	○						32	根柄遺跡			○			
9	小茎北遺跡	○						33	中宿遺跡			○			
10	小茎貝塚	○						34	官の台遺跡			○			
11	小茎南遺跡	○						35	梨の木遺跡			○			
12	天宝喜C遺跡	○						36	水落下遺跡			○			
13	天宝喜貝塚	○						37	隼人山遺跡			○	○		
14	天宝喜西遺跡	○	○					38	中下根遺跡			○	○		
15	大井遺跡	○						39	五十塚古墳群			○			
16	馬場遺跡	○	○	○				40	八木遺跡			○			
17	東山遺跡	○	○	○				41	高山遺跡			○			
18	坂本遺跡	○	○					42	稲荷山古墳群			○			
19	守小橋遺跡	○						43	下大井古墳群			○			
20	権現山上池遺跡	○	○					44	道山古墳群			○			
21	出し山遺跡	○	○					45	内記古墳群			○			
22	後門遺跡	○	○					46	高崎城跡				○		
23	塚下遺跡	○	○					47	田宮一里塚						○
24	沖新田遺根神前遺跡	○	○					48	荒川沖一里塚						○

ないが、平成11年度に調査された下大井遺跡からは、この時代の堅穴住居跡が16軒確認されている。

中世の遺跡は、茎崎町内の稻荷川沿いに戦国時代勢力を拡大していった岡見氏の支城であった高崎城跡（46）、応永3年（1396年）小田治朝の子岡野宮内少輔康朝が築城したと言われる下岩崎泊崎城跡、御城跡、九万坪館跡、館山館跡、牛久市の岡見城跡等がある。下岩崎泊崎城跡は、内濠・外濠・土堤に囲まれた連郭式の平山城で、昭和54年の調査により本丸跡・濠・土塁などが確認されている。前述した下大井遺跡からは、中世の塚塙墓と上塙墓が1基ずつ検出され、陶器・土師質土器・古錢等が出土している。

近世の遺跡は、稻荷川と小野川の間に位置する牛久市の出吉一里塙（47）、小野川左岸の荒川津一里塙（48）が知られているのみである。

※文中の〈 〉内の番号は、表1、第2図の該当番号と同じである。

#### 註

- 1) 茨城県教育財団「牛久北部特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書（I）ヤツノ上遺跡」『茨城県教育財团文化財調査報告』第81集 1993年3月
- 2) 茨城県教育財団「牛久北部特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書（II）中久喜遺跡」『茨城県教育財团文化財調査報告』第86集 1993年3月
- 3) 茎崎町史編さん委員会「茎崎町史」 1990年3月
- 4) 茨城県教育財団「牛久北部特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書 中下根遺跡 西ノ原遺跡 华人山遺跡」『茨城県教育財团文化財調査報告』第113集 1996年6月
- 5) 註4) に同じ
- 6) 茨城県教育財団「牛久北部特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書（IV）馬場遺跡 行人田遺跡」『茨城県教育財团文化財調査報告』第106集 1996年3月
- 7) 註3) に同じ
- 8) 茨城県教育財団「一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設工事地内埋蔵文化財調査報告書1 下大井遺跡」『茨城県教育財团文化財調査報告』第171集 2001年3月
- 9) 茎崎町教育委員会「泊崎城跡」 1980年8月

## 第3章 調査の成果

### 第1節 遺跡の概要

種の沢久保遺跡は、調査区域が農道を挟んで南北2か所に分かれているため便宜上、北側をI区、南側をII区とした。

今回の調査によって、中世から近世にかけての遺跡であることが判明した。遺構としては、近世の井戸跡1基、溝一条、時期不明の井戸跡1基、土坑20基が検出された。

遺物は、遺物収納コンテナ(60×40×20cm)で7箱分が出土地した。遺物は、中世から近世にかけての土師質土器、陶磁器が中心で、陶磁器は漁戸・美濃系や肥前系のものが多い。他には、土師器、須恵器、石製品(砥石)、鐵製品(釘、鎌、刀子)、古銭などが出土している。

### 第2節 基本層序

調査I区南部のA15区にテストピットを設定し、約2m掘り下げて、土層の堆積状況の観察を行った(第3図)。

1層は、暗褐色の表土層で、ローム粒子を中心、ローム小ブロックを少量含んでいる。粘性は弱く、締まりもない。層厚は15~23cmである。

2層は、褐色の表土層で、ローム粒子を中心、ローム小ブロックを微量含んでいる。粘性・締まりとも普通である。層厚は4~15cmである。

3層は、にぶい黄褐色のソフトローム層で、白色粒子を少量含んでいる。擾乱を受けており、水平堆積には見えない。層厚は10~40cmである。

4層は、にぶい黄褐色の粘土層で、鉄分を中量含んでいる。粘性・締まりとも強い。層厚は、10~38cmである。

5層は、にぶい黄褐色のソフトローム層で、赤色粒子を含んでいる。粘性・締まりとも強い。層厚は18cm~40cmである。

6層は、褐色のハードローム層で、緻密で、硬く光沢がある。粘性・締まりとも強い。層厚は10~22cmである。

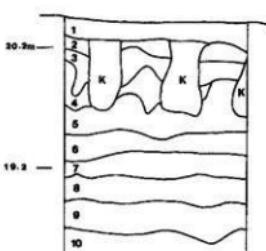
7層は、黄褐色のハードローム層で、粘性・締まりとも強い。層厚は10~20cmである。

8層は、明褐色のハードローム層で、赤色粒子を少量含んでいる。粘性・締まりとも強い。層厚は18~28cmである。

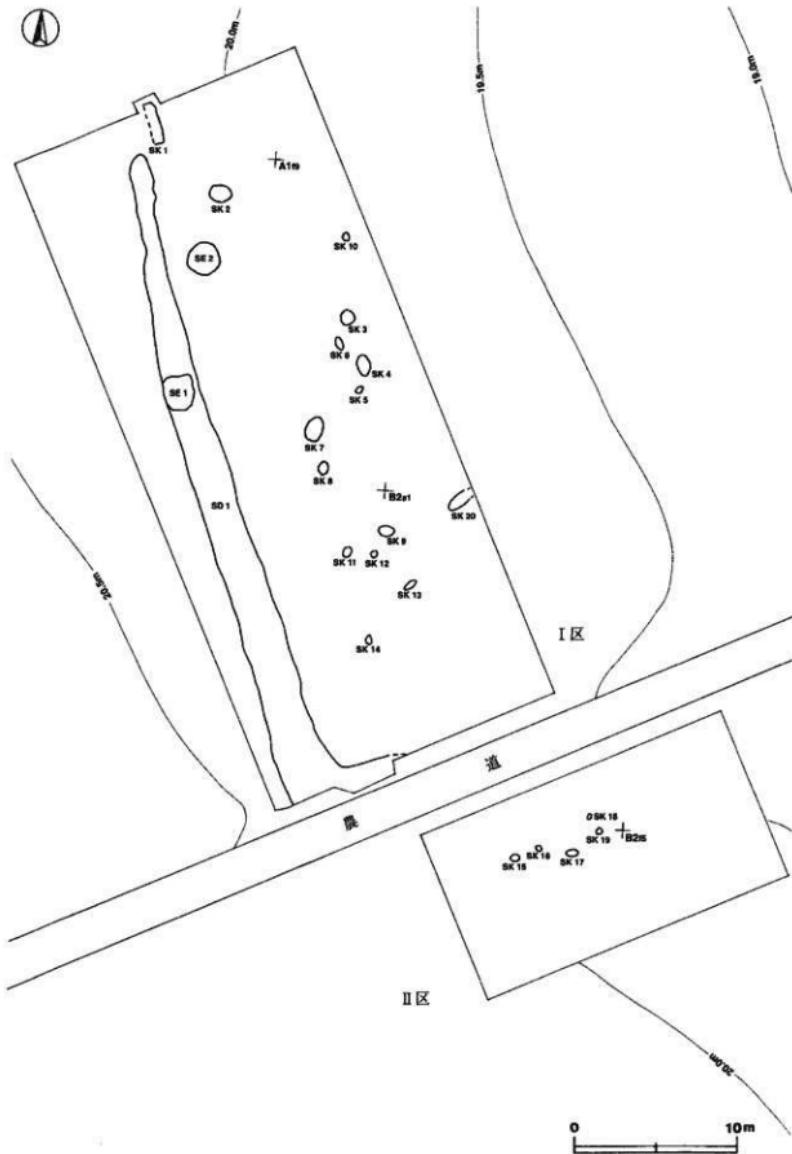
9層は、黄褐色のハードローム層で、赤色粒子を少量含んでいる。粘性・締まりとも強い。層厚は20~30cmである。

10層は、黄褐色の粘土層で、赤色粒子を少量、鉄分を微量含んでいる。粘性・締まりとも強い。層厚は12~24cmである。

遺構は、第2層上面で確認され、第2層から第5層にかけて掘り込まれている。



第3図 基本土層図



第4図 樋の沢久保遺跡遺構全体図

### 第3節 遺構と遺物

#### 1 中・近世の遺構と遺物

遺構調査の結果、遺跡北部の調査I区から、井戸跡1基と溝1条が検出された。そして、これらの遺構から中・近世と思われる在地産の土師質土器の他に瀬戸美濃系及び肥前系と思われる陶磁器が多数出土した。

##### (1) 井戸跡

###### 第1号井戸跡（第5図）

位置 調査I区の北西部、A 117区。

重複関係 土層の堆積状況から、第1号溝が構築される以前に構築された可能性が高い。

規模と形状 長軸2.88m、短軸2.45mの長方形を有する素掘りの井戸跡である。断面の形状は、上方が漏斗状を下方が円筒状を呈する。確認面から1mの深さまでは掘り下げたが、湧水のため底面までは調査することはできなかった。長径方向は、N-11°-Wである。

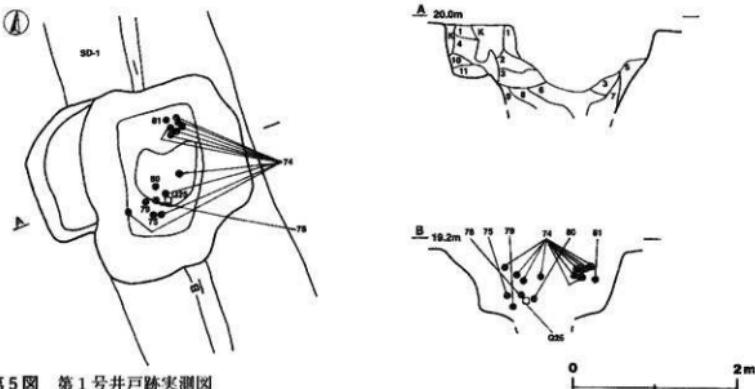
覆土 11層からなる。ブロック状に堆積しており、廃棄のために埋め戻したと考えられる。

###### 土層解説

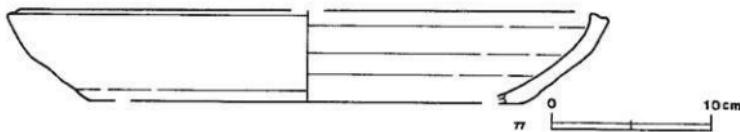
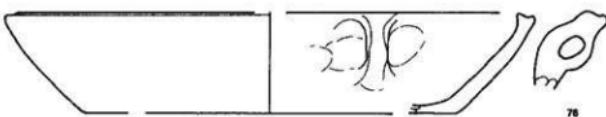
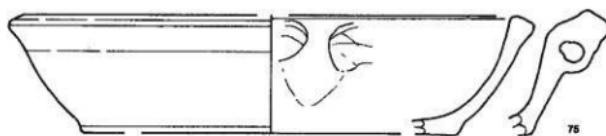
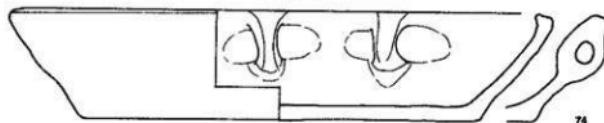
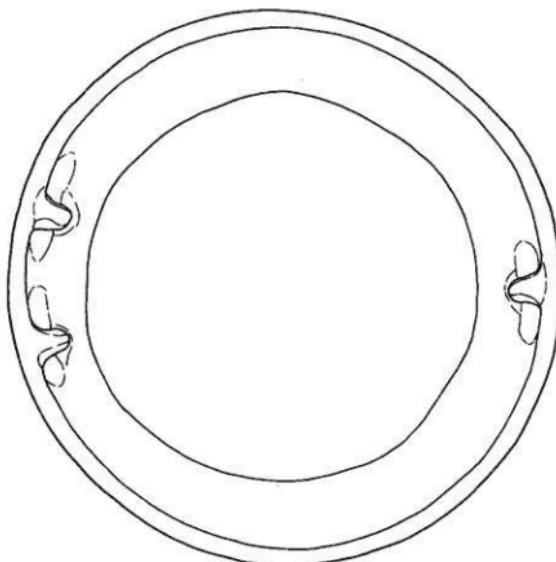
1 黒褐色	ローム粒子少量、赤色粒子微量
2 褐色	ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック微量
3 暗褐色	ローム中ブロック・ローム粒子中量
4 褐色	ローム大ブロック・ローム小ブロック中量
5 黒褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
6 黒褐色	ローム粒子中量
7 暗褐色	ローム粒子微量
8 暗褐色	ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、ローム大ブロック微量
9 黑色	ローム小ブロック・ローム粒子中量
10 黑色	ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム大ブロック微量
11 黑色	ローム粒子多量、ローム小ブロック少量

遺物出土状況 土師質土器15点、石製品（砥石）1点が出土している。第6図74の土師質土器の焰烙は中央部と北部の覆土上層から出土したもののが接合した。第7図78の焰烙、79の鉢、80の片口の擂鉢、Q25の砥石は中央部の覆土上層から、81の擂鉢は北部の覆土上層から出土した。76・77の焰烙は覆土中から出土している。

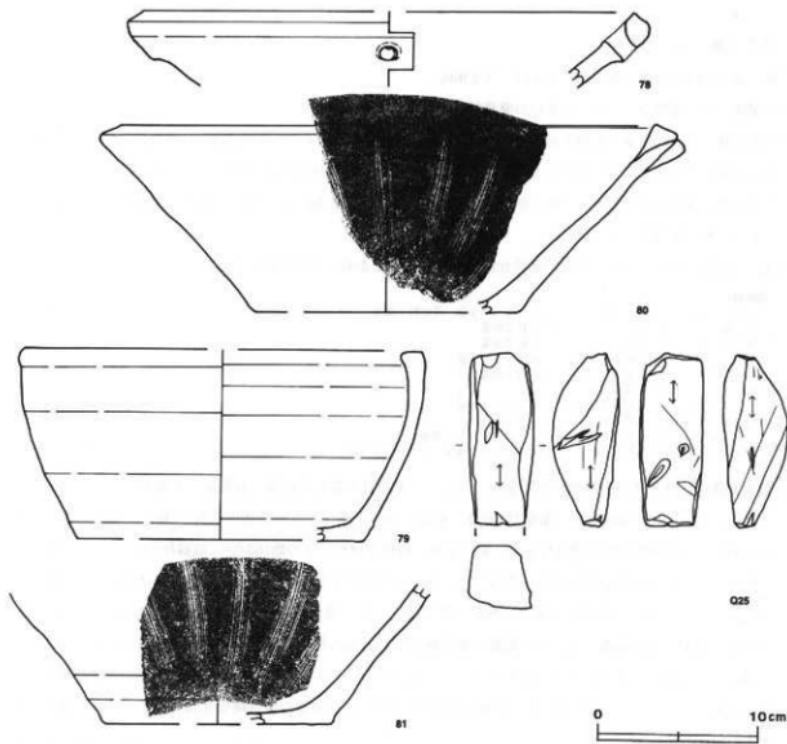
所見 本跡は覆土の堆積状況や遺物の出土状況から、埋め戻され、廃棄された可能性が高いと考えられる。時期は、出土遺物から近世（18～19世紀）と思われる。



第5図 第1号井戸跡実測図



第6図 第1号井戸跡出土遺物実測図(1)



第7図 第1号井戸跡出土遺物実測図(2)

第1号井戸跡出土遺物観察表 (第6・7図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法	出土位置	備考
74	土師質	壺 烧	33.6	6.6	24.6	黄石・石英・雲母	褐	普通	3内耳残存。体部内・外側ナデ。中頸部吹付け土層	95% PL 5	
75	土師質	壺 烧 [32.4]	7.3	[23.2]	[23.2]	黄石・石英・純白子	にぶい褐	普通	1内耳残存。	中央部覆土上層	20% PL 5
76	土師質	壺 烧 [32.8]	6.2	[23.0]	[23.0]	黄石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	1内耳残存。体部内・外側ナデ。	覆土中	20% PL 5
77	土師質	壺 烧 [37.2]	5.6	[26.8]	[26.8]	黄石・石英・雲母	赤褐	普通	体部内・外側ナデ。	覆土中	15% PL 5
78	土師質	壺 烧 [32.2] (4.6)	—	黄石・石英・雲母	褐灰	普通	体部内・外側ナデ。1か所穿孔。	中央部覆土上層	20% PL 5		
79	土師質	鉢 [25.2]	11.7	[17.8]	[17.8]	黄石・石英・雲母	褐	普通	体部内・外側ナデ。口沿部は肥厚する。	中央部覆土上層	30% PL 5
80	土師質	推 鉢 [35.6]	11.6	[16.2]	[16.2]	黄石・石英・雲母	暗赤褐	普通	5条1単位の擦り目。片口。	中央部覆土上層	20% PL 5
81	土師質	推 鉢 —	(8.6)	[14.4]	[14.4]	黄石・石英・雲母	にぶい褐	普通	7条1単位の擦り目。	北部覆土上層	20% PL 5

番号	器種	計測値				石質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
Q25	砥石	(10.6)	39	4.1	(179.8)	凝灰岩	4面使用 表面上に使用痕	中央部覆土上層	PL 6

## (2) 溝

### 第1号溝（第9図）

位置 調査I区の南部～北西部、B 2e1～A 1f6区。

重複関係 出土遺物から、第1号井戸の廃棄後、構築されたと思われる。

規模と形状 B 1e0区から北西方向（N - 16° - W）に、直線的に延びる。南部が調査区域外に延びているため、規模は不明であるが、確認できた長さは40.8mである。また、南部のB 1e0区から、東方向に曲がっていると考えられるが、調査区域外となり全体の状況は検出できなかった。上幅0.9～3.4m、下幅0.2～0.6m、深さは31～46cmである。断面形はU字形を呈する。

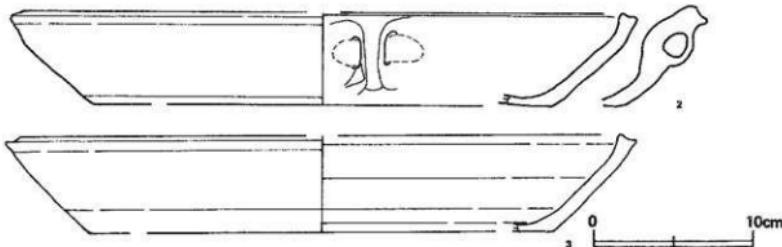
覆土 10層からなる。ブロック状の堆積状況がみられることから、人為堆積と思われる。

#### 土層解説

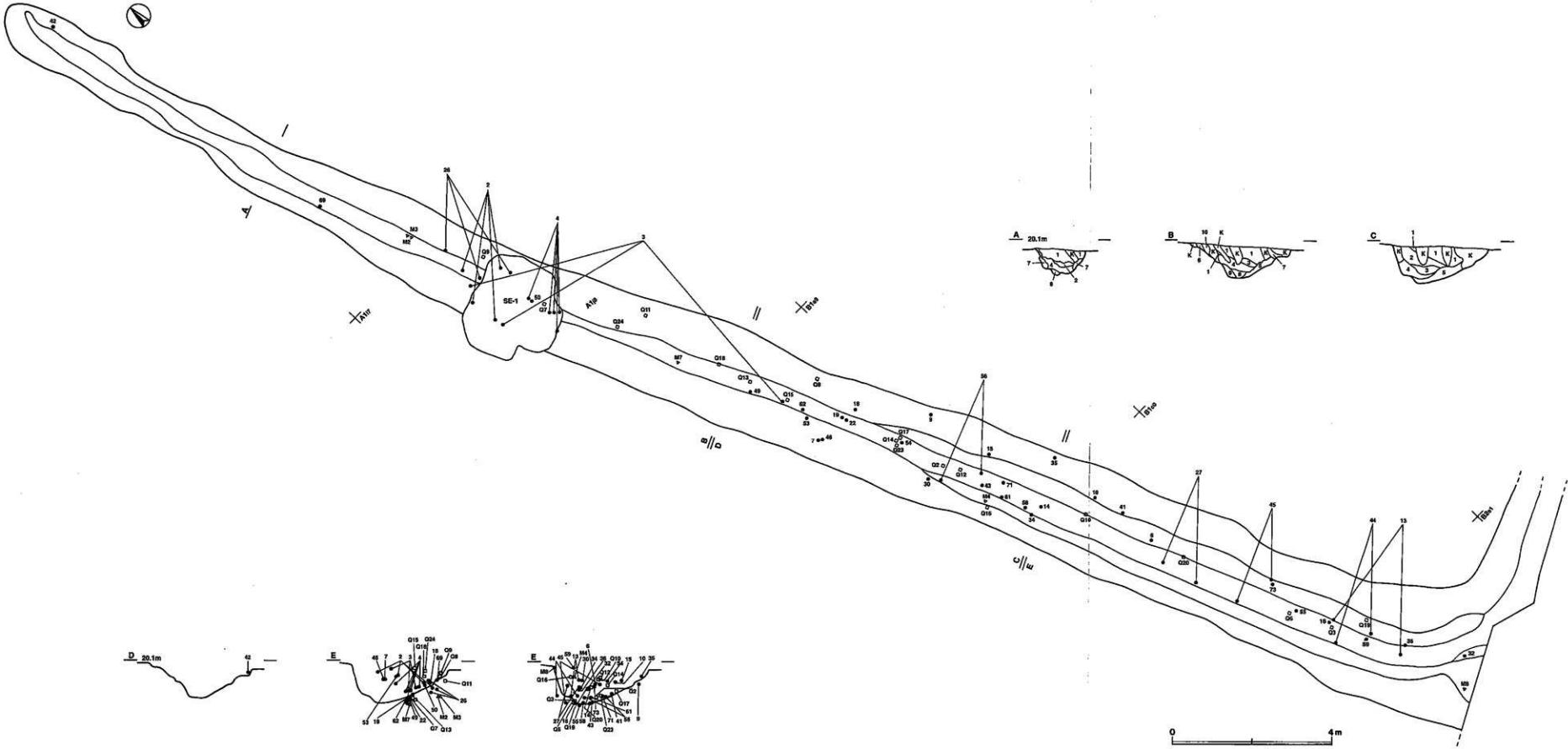
1	暗褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、炭化粒子微量
2	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量
3	黒褐色	ローム中ブロック・ローム粒子少量
4	褐色	ローム粒子多量、ローム大ブロック少量
5	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量
6	褐色	ローム粒子多量
7	褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
8	深褐色	ローム粒子中量
9	ぶい褐色	ローム大ブロック多量、ローム中ブロック中量
10	暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック中量、ローム粒子少量

遺物出土状況 溝全体の中層及び下層を中心にして、土師質土器や陶器、石製品、金銅製品、古錢などが多く出土している。土師質土器（焼烙片180点、小皿片36点、甕片45点、擂鉢片2点）、陶器（碗片3点、天目茶碗片40点、灯明皿及び灯明受皿片8点、皿片2点、擂鉢片18点、その他163点）、磁器片136点、瓦質上器片39点、瓦片1点、石臼2点、砥石19点、鐵釘3点、古錢2点が出土している。第10図13～16は陶器の灯明皿及び灯明受皿である。15以外は南部の覆土下層から出土している。第11図58の磁器の広東碗、41の陶器の双耳壺、43の陶器の能利、44の陶器の壺、55の磁器の染付碗、61の磁器の染付碗、第12図56の磁器の染付碗、71の磁器の皿は南部の底面及び覆土下層から出土している。第10図18・19・22の陶器の碗、第11図62の磁器の碗は、中央部の底面から出土している。第11図26の陶器の天目茶碗、69の磁器の染付碗は北部の覆土下層及び底面からそれぞれ出土している。

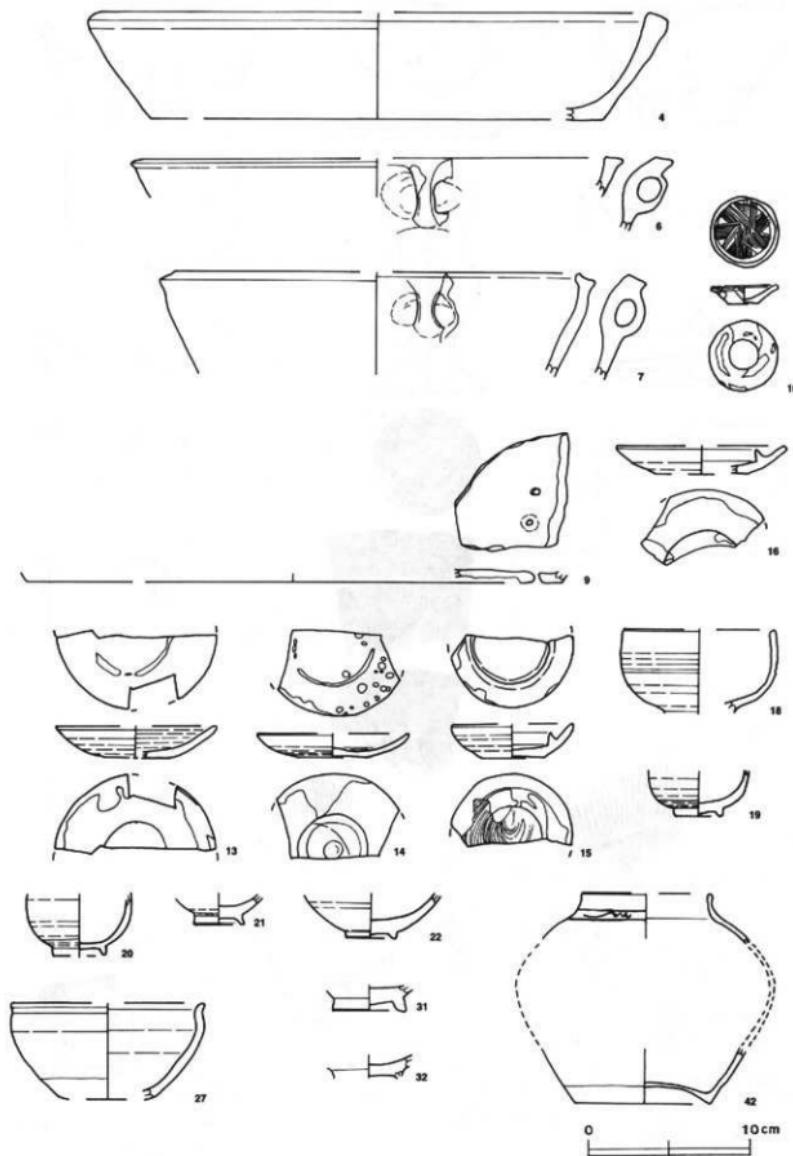
所見 これらの遺物は、長期間にわたって断続的に投棄されたと思われる。近くに近世の屋敷の存在が想定され、この溝はこの屋敷に伴う可能性が高い。時期は、出土遺物から近世（18～19世紀）と思われる。



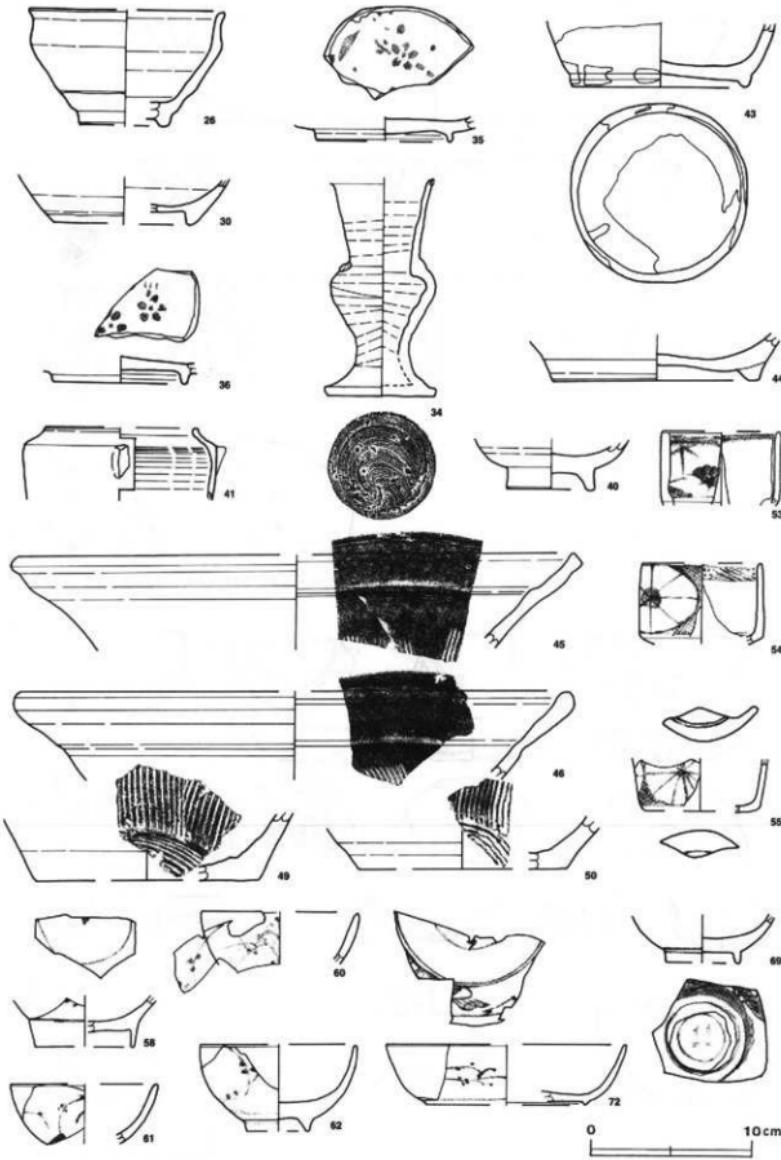
第8図 第1号溝出土遺物実測図(1)



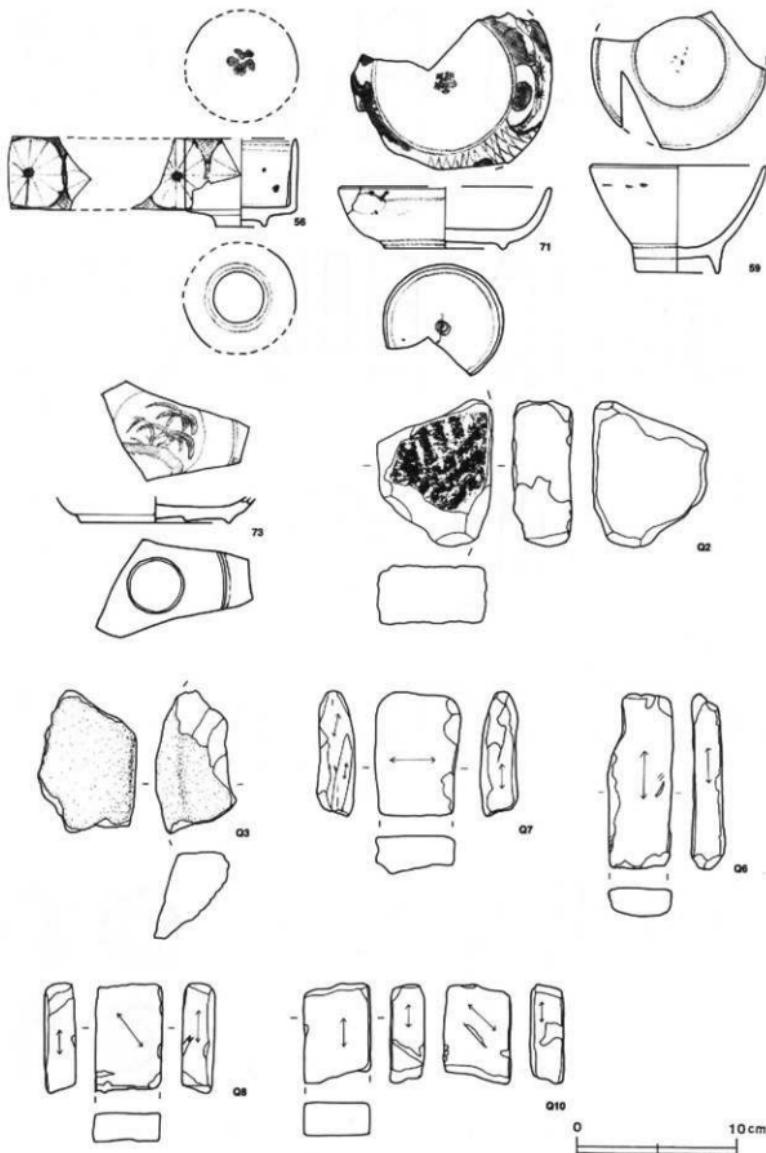
第9図 第1号溝実測図



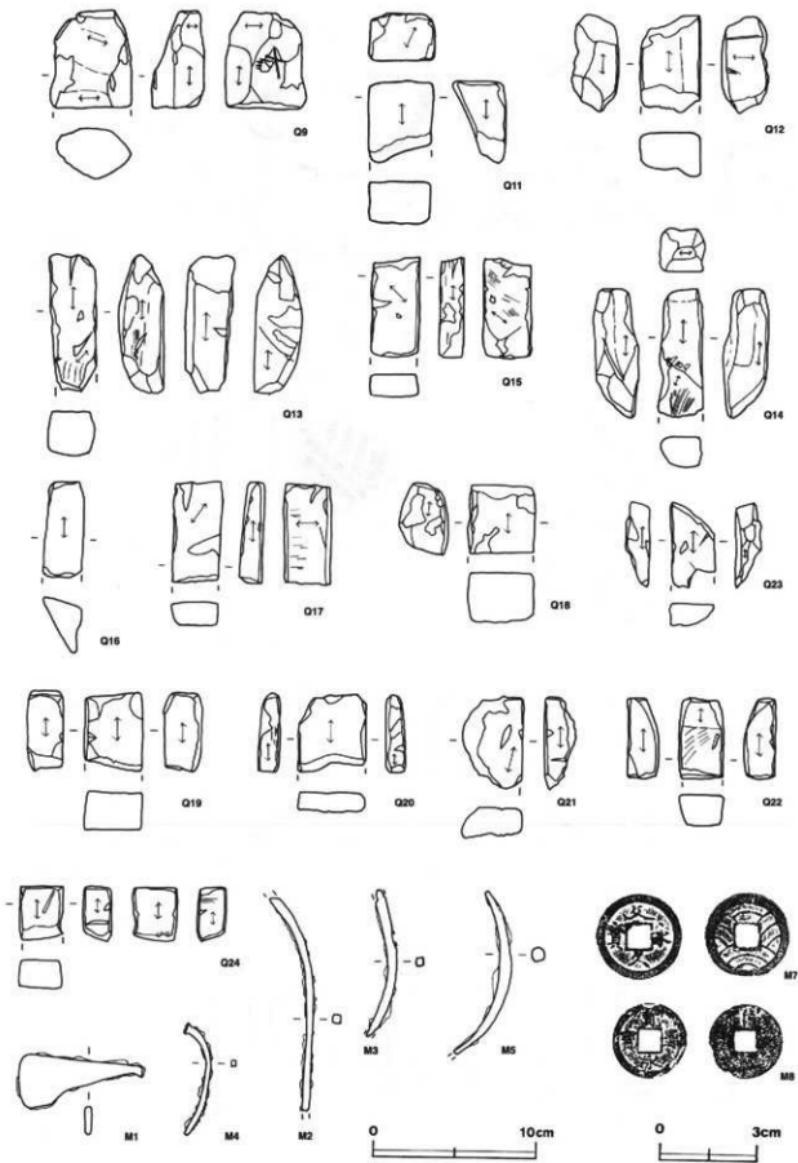
第10図 第1号溝出土遺物実測図(2)



第11図 第1号溝出土遺物実測図(3)



第12図 第1号溝出土遺物実測図(4)



第13図 第1号溝出土遺物実測図(5)

第1号溝出土遺物觀察表(第8・10~13回)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法	出土位置	備考
2	上部質	培塿	[38.3]	6.3	[28.2]	長石・石英・雲母 に赤色	普通	1内窓残存。体部内・外面ナメ。	北部覆土上層と下層	体部表面剥離	PL 5
3	土師質	培塿	[39.0]	6.0	[28.8]	長石・石英・雲母 に赤色	普通	体部内・外面横ナメ。	北部底面	PL 5	
4	上部質	培塿	[35.8]	6.6	[28.0]	長石・石英・雲母 に赤色	普通	体部内・外面横ナメ。	北部覆土下層	PL 5	
6	土師質	培塿	[30.4]	(4.5)	—	長石・石英・雲母 に赤色	普通	1内窓残存。体部内・外面ナメ。	南部覆土中層	PL 5	
7	上部質	培塿	[27.0]	(6.4)	—	長石・石英・雲母 に赤色	普通	1内窓残存。体部内・外面ナメ。	中央部覆土中層	PL 5	
9	土師質	培塿	—	(0.8)	[33.0]	長石 に赤色	普通	底部片。2か所穿孔。	中央部底面	PL 5	
10	上部質	培塿	4.2	1.2	0.8	長石・赤色粒子 混	普通	10枚1單位の櫻り目。	南部覆土中層		

番号	種別	器種	L口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	釉薬	発地	年代	出土位置	備考
13	陶器	灯明皿	[10.9]	1.9	[3.8]	灰黄	赤褐	鉄輪	都・丸窓	19C	輪軸取付部	近江御器	
14	陶器	灯明皿	[9.4]	1.5	4.2	灰褐	明赤褐	鉄輪	都・丸窓	19C	南部底面	近江御器	
15	陶器	灯明受皿	[7.6]	2.1	3.8	に赤色	に赤色	鉄輪	都・丸窓	19C	中央部中層	50%PL 3	
16	陶器	灯明受皿	[10.6]	1.7	[5.6]	灰黄	暗赤褐	鉄輪	都・丸窓	19C	南部覆土下層	近江御器	
18	陶器	碗	[9.4]	(5.1)	—	灰白	青白	灰・灰輪	都・丸窓	18C後半	中央部底面下層	50%骨粉附	
19	陶器	碗	—	(2.8)	2.8	に赤褐色	灰白	灰輪	都・丸窓	18C~19C	中央部底面	50%	
20	陶器	碗	—	(3.9)	[3.2]	灰白	灰白	灰輪	都・丸窓	18C~19C	覆土中	40%	
21	陶器	碗	—	(1.4)	3.0	灰白	灰白	灰輪	都・丸窓	18C~19C	覆土中	30%	
22	陶器	碗	—	(2.8)	3.2	灰黄	灰白	灰輪	都・丸窓	18C~19C	中央部底面	30%	
26	陶器	天日茶碗	[12.2]	7.1	[5.4]	に赤色	黄	鉄輪	都・丸窓	18C~19C	南北底面	50%PL 3	
27	陶器	天日茶碗	[12.0]	5.9	[6.0]	灰白	黑	鉄輪	都・丸窓	18C~19C	南北底面	30%PL 3	
30	陶器	壺小	—	(2.9)	[8.6]	に赤褐色	黒	鉄輪	都・丸窓	江戸後期	中央部覆土中層	10%	
31	陶器	天日茶碗	—	(1.6)	—	灰黄	黒	鉄輪	都・丸窓	18C~19C	覆土中	10%	
32	陶器	壺	—	(1.4)	4.6	灰白	暗褐	鉄輪	都・丸窓	18C後半	南部覆土中層	10%骨粉附	
34	陶器	仏花瓶	—	(13.4)	6.8	灰白	灰褐	灰輪	都・丸窓	19C	南部覆土中層	80%PL 3	
35	陶器	皿	—	(1.5)	[8.2]	灰白	に赤褐色	型彫刻り梅文	灰輪	都・丸窓	17C末	南北覆土上層	10%PL 3
36	陶器	皿	—	(1.6)	[8.2]	灰白	灰白	型彫刻り梅文	灰輪	都・丸窓	17C末	南部覆土中層	10%PL 3
40	陶器	呑口手鏡	—	(3.1)	5.4	灰白	灰白	灰輪	覆土中	18C	都・丸窓	10%骨粉附	
41	陶器	双耳豆	[9.4]	(4.4)	—	灰白	に赤褐色	鉄輪	都・丸窓	18C	南部覆土下層	5%	
42	陶器	土瓶	[8.0]	[16.5]	[8.2]	に赤褐色	白化粧土	白化粧土	笠置・灰輪	都・丸窓	19C	北部底面	20%PL 3
43	陶器	泡利	—	4	11.0	浅黄	白絞織	白絞織	灰輪	都・丸窓	19C	南部底面	20%PL 3
44	陶器	泡利	—	(3.0)	12.8	浅黄	白絞織	白絞織	都・丸窓	19C	都・丸窓	20%PL 3	
45	陶器	搖籃	[35.2]	(5.8)	—	灰白	暗赤褐	鉄輪	都・丸窓	18C~19C	都・丸窓	10%	
46	陶器	搖籃	[34.6]	(5.4)	—	浅黄	暗赤褐	鉄輪	都・丸窓	18C~19C	中央部覆土中層	5%PL 3	
49	陶器	搖籃	—	(4.1)	[13.8]	灰白	暗赤褐	鉄輪	都・丸窓	18C~19C	中央部底面	10%PL 3	
50	陶器	搖籃	—	(3.3)	[12.8]	灰白	暗赤褐	鉄輪	都・丸窓	18C~19C	北部覆土下層	5%	
53	磁器	碗	[4.4]	(4.5)	—	灰白	灰白	染付雪もじ文	透明	肥前系		中央部覆土下層	10%PL 4
54	磁器	碗	[7.4]	(5.0)	—	灰白	灰白	染付菊散し	透明	肥前系		中央部覆土中層	20%PL 4
55	磁器	碗	—	(3.3)	[7.4]	灰白	灰白	染付菊散し	透明	肥前系		南部底面	20%
56	磁器	碗	[7.0]	5.4	3.2	灰白	灰白	染付雪もじ文	透明	都・丸窓	19C	南部覆土下層	50%PL 4
58	磁器	広口碗	—	(3.2)	[6.2]	灰白	灰白	染付	透明	肥前系		南部底面	30%PL 4
59	磁器	広口碗	11.0	5.5	5.2	灰白	灰白	染付	透明	肥前系		南部覆土下層	70%PL 4
60	磁器	碗	[9.8]	(3.2)	—	灰白	灰白	染付梅樹文	透明	肥前系		覆土中	10%PL 4
61	磁器	碗	[9.2]	(3.7)	—	灰白	灰白	染付梅樹文	透明	肥前系		南部覆土下層	10%
62	磁器	碗	[9.8]	(5.3)	[3.8]	灰白	灰白	染付梅樹文	透明	肥前系		中央部底面	5%都・丸窓

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土	色調	紋付	釉薬	產地	年代	出土位置	備考
69	磁器	碗	-	(3.0)	[5.6]	灰白	灰白	朱付 花文	透明	肥前系	17C末か	北部底面	30% PL4
71	磁器	皿	[13.2]	3.3	7.4	灰白	灰白	白粉	透明	肥前系	18C	南部覆土上層	60% PL4
72	磁器	皿	[15.0]	3.7	[9.8]	灰白	灰白	白粉	透明	肥前系		覆土中	30% PL4
73	磁器	皿	-	(1.6)	[9.1]	灰白	灰白	白粉	透明	肥前系		南部覆土中層	10% PL4

番号	器種	計測値				材質	特徴		出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)					
Q2	石臼	(9.0)	(7.2)	(3.2)	(346.5)	砂岩	下臼少		中央部覆土下層	PL 6
Q3	石臼	(8.7)	(5.0)	(6.1)	(219.5)	安山岩	上臼少		南部底面	
Q6	砥石	(10.7)	4.0	(2.1)	(129.0)	凝灰岩	2面使用		南部底面	PL 6
Q7	砥石	(7.7)	5.3	(2.4)	(130.5)	凝灰岩	3面使用		北部覆土下層	PL 6
Q8	砥石	(6.8)	4.1	2.0	(89.9)	凝灰岩	3面使用		中央部覆土下層	PL 6
Q9	砥石	(6.0)	5.1	3.1	(94.4)	凝灰岩	3面使用		北部覆土下層	
Q10	砥石	(6.1)	4.1	2.1	(86.4)	凝灰岩	4面使用		南部覆土中層	PL 6
Q11	砥石	(5.0)	4.0	2.6	(71.3)	凝灰岩	3面使用		中央部底面	
Q12	砥石	(5.9)	3.9	(2.9)	(81.1)	凝灰岩	3面使用		南部覆土中層	
Q13	砥石	(8.5)	3.0	2.9	(88.0)	凝灰岩	4面使用		中央部底面	
Q14	砥石	(7.9)	2.8	2.8	(63.1)	凝灰岩	4面使用		中央部覆土中層	
Q15	砥石	(6.2)	3.0	1.5	(44.2)	凝灰岩	3面使用		中央部覆土上層	
Q16	砥石	(5.9)	2.5	3.3	(61.0)	凝灰岩	1面使用		南部覆土上層	PL 6
Q17	砥石	(6.2)	3.0	1.4	(45.7)	凝灰岩	3面使用 表面に使用痕		中央部覆土下層	PL 6
Q18	砥石	(4.2)	4.1	3.0	(74.7)	凝灰岩	2面使用		中央部覆土中層	
Q19	砥石	(4.9)	3.7	2.3	(67.1)	凝灰岩	3面使用		南部覆土中層	
Q20	砥石	(4.7)	4.2	1.3	34.2	凝灰岩	3面使用		南部覆土中層	
Q21	砥石	(5.7)	(3.8)	(2.0)	(41.4)	凝灰岩	2面使用		覆土中	
Q22	砥石	(4.9)	2.8	2.0	(42.6)	凝灰岩	3面使用		覆土中	PL 6
Q23	砥石	(5.2)	2.9	(1.6)	(18.8)	凝灰岩	3面使用		中央部底面	
Q24	砥石	(3.3)	2.7	1.8	(20.0)	凝灰岩	4面使用		中央部覆土上層	

番号	器種	計測値				材質	特徴		出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)					
M1	不明	(7.4)	3.3	0.4	(31.0)	鉄			覆土中	PL 6
M2	釘	(13.1)	0.5	0.5	(14.3)	鉄	断面四角形		北部底面	PL 6
M3	釘	(9.1)	0.5	0.5	(10.8)	鉄	断面四角形		北部底面	
M4	釘	(7.0)	0.4	0.3	(4.3)	鉄	断面四角形		南部覆土中層	
M5	不明	(10.1)	0.8	0.8	(19.4)	鉄			覆土中	

番号	鉢類	径(cm)	口徑(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	初鉢 年代(西暦)		出土位置	備考
						内径(cm)	外径(cm)		
M7	文久水甕	2.7	0.7	0.1	3.0	文久3年	(1863年)江戸	中央部底面	PL 6
M8	寛永通甕	2.3	0.7	0.1	2.2	江戸	(1700年)	南部覆土上層	PL 6

## 2 時期不明の遺構と遺物

遺構調査の結果、遺跡内の調査I区及びII区から、井戸1基と土坑20基が検出された。これらは、時期を限定できる遺物がなく時期不明とした。また、土坑については、遺存状態が良好なものについては解説し、それ以外は一覧表で記載する。

### (1) 井戸跡

#### 第2号井戸跡（第14図）

位置 調査I区の北西部、A 1 g8区。

規模と形状 径1.97~2.08の円形を呈する素掘りの井戸跡である。断面の形状は、上方が漏斗状を呈する。確認面から1.6mの深さまでは掘り下げたが、漏水のため底面までは調査することができなかった。

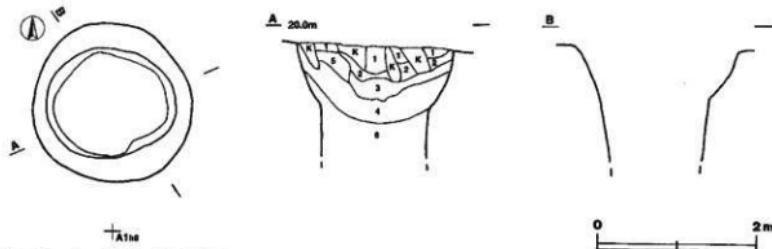
覆土 6層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と思われる。

##### 土壤解説

1 黒 色	ローム粒子・赤色粒子微量
2 保 暗 褐 色	ローム粒子微量
3 墓 地 色	ローム粒子・赤色粒子少量
4 墓 地 色	ローム粒子微量、赤色粒子微量
5 海 色	ローム粒子多量、赤色粒子微量
6 明 澄 色	ローム粒子多量

遺物出土状況 陶器片1点が覆土中から出土している。

所見 陶器片1点が覆土中から出土しているが、攪乱を受けており、本遺構に伴うものかは判断できない。よって、時期は不明である。



第14図 第2号井戸跡実測図

### (2) 土坑

#### 第1号土坑（第15図）

位置 調査I区の北部の西端、A 1 e7区。

規模と形状 北部が調査区域外となっている。長軸2.10m、推定短軸0.67mで長方形と推定される。深さは40cmである。長軸方向は、N-22°-Wである。壁は、外傾して立ち上がる。底面は平坦である。

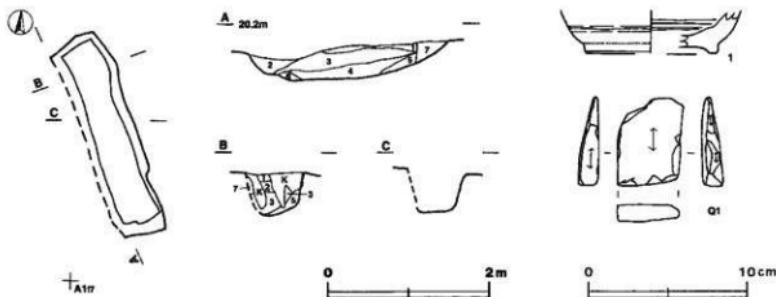
覆土 7層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

## 土層解説

- 1 砂 湿 色  
2 砂 湿 色  
3 砂 湿 色  
4 砂 湿 色  
5 砂 湿 色  
6 砂 湿 色  
7 砂 湿 色
- ローム小ブロック・ローム粒子中量  
ローム粒子中量、ローム小ブロック少量  
ローム中ブロック・ローム小ブロック中量、ローム大ブロック・ローム粒子少量  
ローム粒子中量、ローム小ブロック微量  
ローム粒子少量、ローム大ブロック・ローム中ブロック微量  
ローム大ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量  
ローム粒子中量

遺物出土状況 土師器片5点、陶器片4点、磁器片6点、石製品1点が出土している。

所見 遺物は覆土中から出土しており、形状から中世の墓壙の可能性は考えられるが、時期を限定することは難しい。



第15図 第1号土坑・出土遺物実測図

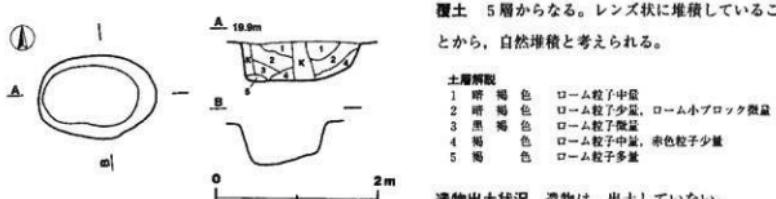
第1号土坑出土遺物観察表（第15図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	釉薬	座地	年代	出土位置	備考	
1	陶器	徳利	-	(2.7)	[8.2]	に赤い鉄器	オリーブ		灰釉	鉄II・鐵III	BC後半～IC	覆土中	5%
<hr/>													
番号	器種	計測値				石質	特徴		出土位置	備考			
Q1	磁石	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	高灰岩	表面に使用痕	3面使用	覆土中				
		(3.5)	4.1	1.3	(31.0)								

第2号土坑（第16図）

位置 調査I区の北部、A 18区。

規模と形状 長径1.44m、短径1.06mの不整楕円形で、深さは48cmである。壁は外傾して立ち上がる。長径方向は、N-86°-Wである。底面は平坦である。



覆土 5層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

## 土層解説

- 1 砂 湿 色  
2 砂 湿 色  
3 黒 湿 色  
4 砂 湿 色  
5 黄 湿 色
- ローム粒子中量  
ローム粒子少量、ローム小ブロック微量  
ローム粒子微量  
ローム粒子中量、赤色粒子少量  
ローム粒子多量

遺物出土状況 遺物は、出土していない。

所見 時期は、出土遺物がなく不明である。

第16図 第2号土坑実測図

### 第3号土坑（第17図）

位置 調査I区の中央部, A 1h0区。

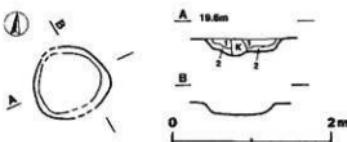
規模と形状 長径0.97m, 短径0.88mの不整規円形, 深さは15cmである。壁は緩やかに外傾して立ち上がる。長径方向は, N-89°-Wである。底面は平坦である。

覆土 2層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説	
1	黒褐色
2	黒褐色

遺物出土状況 遺物は、出土していない。

所見 時期は、出土遺物がなく不明である。



第17図 第3号土坑実測図

### 第4号土坑（第18図）

位置 調査I区の北部, A 1i0区。

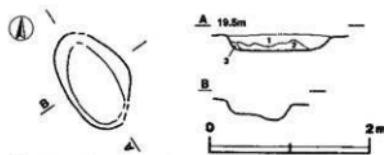
規模と形状 長径1.31m, 短径0.82mの不整規円形, 深さは22cmである。壁は、外傾して立ち上がる。長径方向は, N-25°-Wである。底面は平坦である。

覆土 3層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説	
1	極端褐色
2	暗褐色
3	褐色

遺物出土状況 遺物は、出土していない。

所見 時期は、出土遺物がなく不明である。



第18図 第4号土坑実測図

### 第6号土坑（第19図）

位置 調査I区の中央部, A 1h0区。

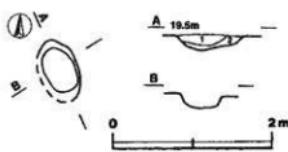
規模と形状 長径0.80m, 推定短径0.51mの不整規円形, 深さは17cmである。壁は、外傾して立ち上がる。長径方向は, N-22°-Wである。底面は平坦である。

覆土 2層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説	
1	黒褐色
2	暗褐色

遺物出土状況 遺物は、出土していない。

所見 時期は、出土遺物がなく不明である。

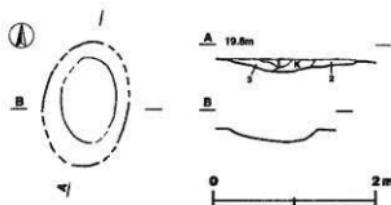


第19図 第6号土坑実測図

### 第7号土坑（第20図）

位置 調査I区の北部, A 1j9区。

規模と形状 長径1.55m, 短径1.04mの不整規円形, 深さは15cmである。壁は、緩やかに外傾して立ち上がる。



第20図 第7号土坑実測図

長径方向は、N-12°-Eである。底面は平坦である。

覆土 3層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説		
1	褐 色	ローム粒子微量
2	褐褐色	ローム粒子少量
3	褐 色	ローム粒子少量

遺物出土状況 遺物は、出土していない。

所見 時期は、出土遺物がなく不明である。

#### 第20号土坑（第21図）

位置 調査I区の南部の東端、B 2a2区。

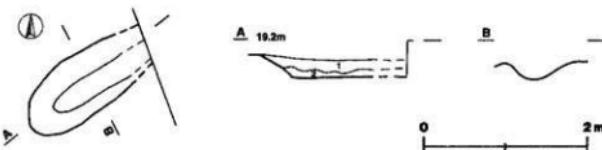
規模と形状 推定長径1.71m、短径0.72mの不整橢円形で、深さは20cmである。壁は、緩やかに外傾して立ち上がる。長径方向は、N-54°-Eである。底面は平坦である。

覆土 2層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

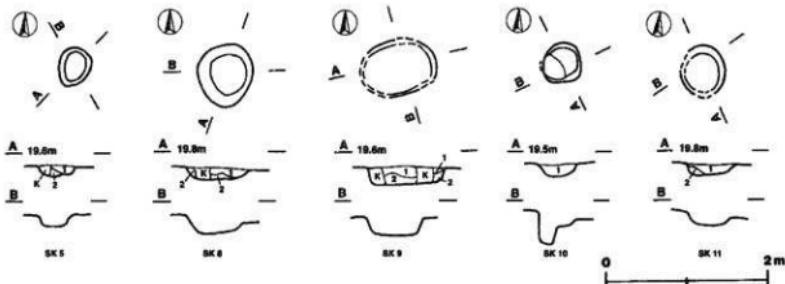
土層解説		
1	褐 色	ローム粒子少量、炭化粒子微量、硬く固まっている
2	褐 色	ローム粒子少量

遺物出土状況 遺物は、出土していない。

所見 時期は、出土遺物がなく不明である。



第21図 第20号土坑実測図



第22図 土坑実測図(1)

#### 第5号土坑土層解説

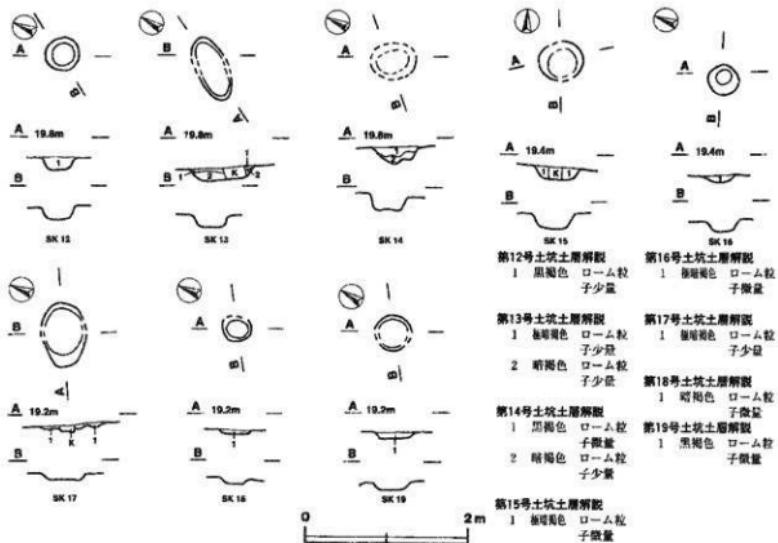
#### 第6号土坑土層解説

#### 第7号土坑土層解説

#### 第10号土坑土層解説

#### 第11号土坑土層解説

1 黒 色	ローム粒子中量	1 細褐色	ローム粒子微量	1 黒褐色	ローム粒子微量	1 黒褐色	ローム粒子少量
2 暗褐色	ローム粒子少量	2 暗褐色	ローム粒子中量	2 暗褐色	ローム粒子少量	2 褐 色	ローム粒子少量



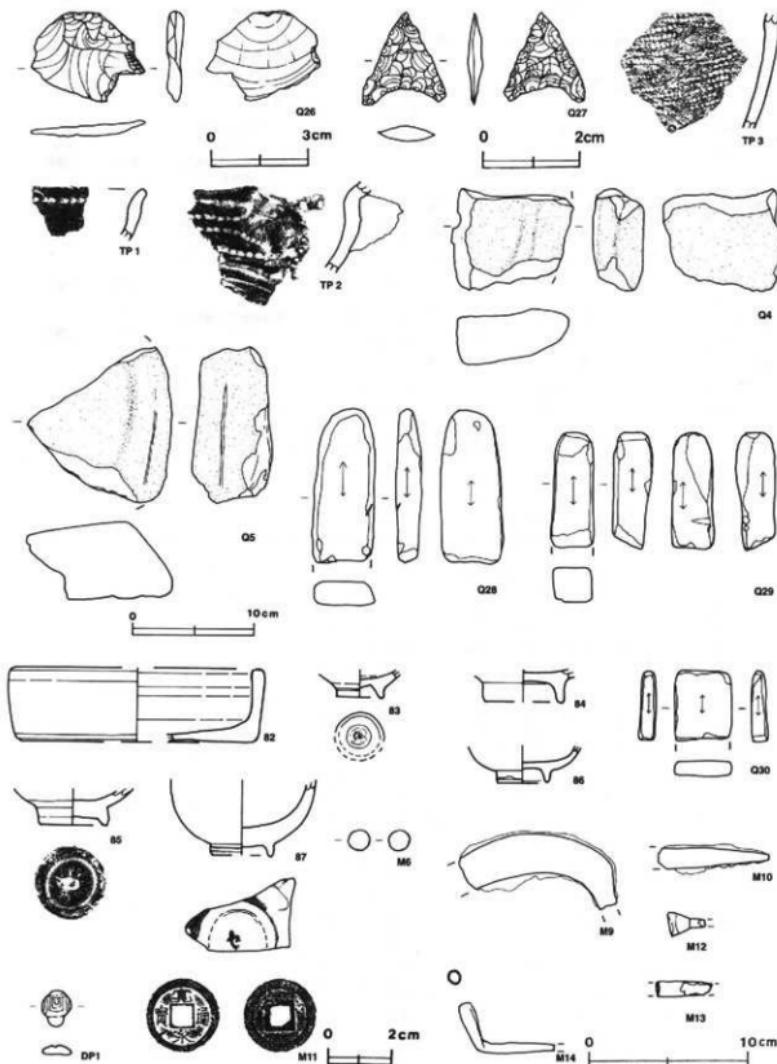
第23図 土坑実測図(2)

表2 横の沢久保遺跡土坑一覧表

番号	位置	長径方向 (長軸方向)	平面形	規格		横面	底面	覆土	出土遺物	備考
				長径×短径 (m)	深さ (m)					
1	A1e7	N-22°-W	[長方形]	2.10 × [0.67]	40	外傾 平坦	自然	土器片5点、陶器片10点、石1点		
2	A1g8	N-86°-W	楕円形	1.44 × 1.06	48	外傾 平坦	自然			
3	A1h0	N-89°-W	楕円形	0.97 × 0.88	15	緩斜 平坦	自然			
4	A1i0	N-25°-W	楕円形	1.31 × 0.82	22	外傾 平坦	自然			
5	A1j0	N-24°-E	楕円形	0.49 × 0.40	16	外傾 平坦	自然			
6	A1h0	N-22°-W	楕円形	0.80 × [0.51]	17	外傾 平坦	自然			
7	A1j0	N-12°-E	楕円形	1.55 × 1.04	15	緩斜 平坦	自然			
8	A1j0		円形	0.71 × 0.69	20	緩斜 平坦	自然	陶器片2点		
9	B2e1	N-73°-E	[楕円形]	[0.94] × 0.68	24	外傾 平坦	自然			
10	A1g0		円形	0.51 × 0.47	40	直立 平坦	自然			
11	B1a0	N-1°-E	[楕円形]	0.64 × 0.54	15	緩斜 平坦	自然	土器片1点		
12	B1a0		円形	0.41	15	外傾 半倒	自然			
13	B2b1		[楕円形]	0.83 × [0.40]	15	外傾 平坦	自然			
14	B1c0	N-35°-W	[楕円形]	[0.57] × [0.45]	18	外傾 平坦	自然			
15	B2c3	N-70°-E	[楕円形]	0.55 × [0.49]	15	外傾 平坦	自然			
16	B2c3		円形	0.41 × 0.36	14	外傾 平坦	自然			
17	B2c4	N-71°-E	[楕円形]	0.78 × [0.55]	9	緩斜 凹凸	自然			
18	B2e4	N-16°-W	[楕円形]	0.38 × [0.31]	9	緩斜 平坦	自然			
19	B2e4	N-28°-W	楕円形	0.46 × 0.41	8	緩斜 平坦	自然			
20	B2a2	N-54°-E	[楕円形]	[1.71] × 0.72	20	緩斜 平坦	自然			

### 3 遺構外出土遺物

今回の調査では、遺構に伴わない縄文時代から近世にかけての遺物が何点か出土している。ここでは、これらの出土遺物を一括して実測図（第24図）と観察表で記載する。



第24図 遺構外出土遺物実測図

遺構・出土・遺物観察表（第24回）

番号	種別	器種	計測値	粘土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP1	萬文字器	深鉢	(3.0)	長石・石英・雲母	に赤い褐	普通	縦帯に沿って筋部沈縮文を施している。	表土中	PL 6
TP2	萬文字器	深鉢	(5.4)	長石・雲母	に赤い褐	普通	丁寧な面部の筋模様を施している。背面に沿って筋割れ痕。	表土中	PL 6
TP3	萬文字器	深鉢	(7.3)	長石・石英・雲母	に赤い褐	普通	RLの手筋文を横方向に施している。	表土中	PL 6

番号	種別	器種	口径	器高	底径	粘土	色調	繪付	施用	産地	年代	出土位置	備考
82	陶器	盤	[16.0]	4.6	[14.2]	灰白	浅黄		灰釉	脚・腰部	18C~19C	表土中	
83	陶器	碗	-	(2.2)	3.0	灰白	灰白		灰釉	脚・腰部		表土中	
84	陶器	碗	-	(2.1)	[4.8]	灰白	浅黄		灰釉	肥前系		表土中	
85	陶器	碗	-	(2.3)	4.2	灰白	オリーブ灰		灰釉	肥前系		表土中	
86	陶器	碗	-	(2.3)	3.0	綠	綠		不明	明治以降		表土中	
87	陶器	碗	-	(4.2)	[3.8]	灰白	灰白	梅樹文	透明	肥前系		表土中	PL 4

番号	器種	計測値			材質	特徴	出土位置	備考	
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)					
Q4	石皿	(6.3)	(7.6)	3.4	(144.9)	安山岩		表土中	PL 6
Q5	台石	(12.9)	(12.0)	6.4	(1031.8)	安山岩		表土中	
Q26	劍片	2.8	3.6	0.6	3.6	硬質頁岩	断面丸い形、刃面は鋸歯状であり、山形刀のね。	表土中	PL 6
Q27	石刀	1.9	1.7	0.3	0.8	チャート	四部無基巣	表土中	PL 6
Q28	砥石	(9.5)	4.9	1.1	(90.8)	藏灰岩	3面使用	表土中	
Q29	砥石	(7.2)	2.7	2.5	(75.8)	藏灰岩	4面使用	表土中	
Q30	砥石	(4.3)	3.6	1.1	(24.0)	藏灰岩	3面使用	表土中	

番号	器種	計測値			特徴	出土位置	備考	
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)				
DP1	泥面子	22	1.8	0.6	2.0	木縫を施したものか。	表土中	PL 6

番号	器種	径(cm)	重量(g)	材質	特徴	出土位置	備考
M6	新玉	1.3	12.7	鈍	表面は灰オリーブ色に変色	表土中	PL 6

番号	器種	計測値			材質	特徴	出土位置	備考	
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)					
M9	錘	(9.8)	2.4	0.4	(90.0)	鉄	曲刃錘	表土中	PL 6
M10	刀子	(6.9)	1.4	0.4	(11.5)	鉄	刀部先端欠損	表土中	

番号	器種	計測値			材質	特徴	出土位置	備考	
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)					
M12	煙管	(2.3)	1.5	0.1	(2.7)	銅	吸い口部	表土中	PL 6
M13	煙管	(3.5)	0.9	0.1	(1.7)	銅	吸い口部一部欠損	表土中	
M14	煙管	(5.9)	0.9	0.1	(5.1)	銅	吸い口部	表土中	

番号	銭銘	径(cm)	口径(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	初鑄年代(西暦)	出土位置	備考
M11	寛永通寶	2.3	0.6	0.1	2.4	江戸(1714年)	表土中	PL 6

## 第4節 まとめ

今回の調査で、樋の沢久保遺跡から検出された遺構は、井戸跡2基、土坑20基、溝1条である。当遺跡の中心となる時期は、近世の江戸時代中頃と考えられ、前記の遺構のうち溝と井戸跡1基がこの時期にあたると思われる。土坑は、遺物が出土しているものがほとんどなく、時期不明である。今回の調査は、2か所に分かれており、便宜上北部をI区、南部をII区とした。

ここでは、当遺跡から検出された近世の遺構と遺物についてその概要を述べ、まとめとしたい。

### 1 遺構について

当遺跡からは、井戸跡2基、土坑20基、溝1条が検出された。溝と井戸跡は、いずれも調査I区から検出されている。溝はB2e1区から北西方向にはば直線的に延びるが、南部のB1e0区で東北方向に向かってL字形に曲がっている。溝は農道を隔てたII区からは、検出されていない。

このうち溝（第1号溝）と第1号井戸跡からは、江戸時代中頃（18～19世紀）と思われる陶磁器や在地の土師質土器が出土した。特に第1号溝からは、覆土の各層から多量に出土しており、長期間にわたり断続的に投棄された可能性が考えられる。

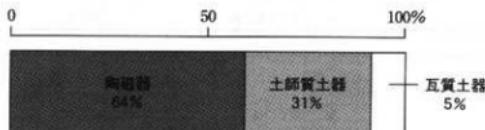
第1号井戸跡は、第1号溝と重複しており、土層の堆積状況から、本跡が埋め戻された後に、第1号溝が構築された可能性が高い。第2号井戸跡は、第1号井戸跡のはば真北に位置する。第2号井戸跡からは、遺物は出土していないが、規模や形状は第1号井戸跡と似ている点が多い。

土坑は、20基検出されている。規模や形状はさまざまである。遺物が出土しているのは、第1・8・11号土坑で、陶磁器の破片が少量出土しているが、これ以外は出土していない。

### 2 遺物について

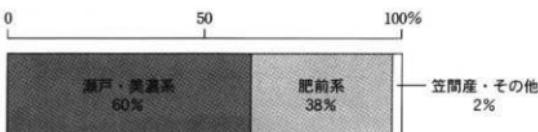
当遺跡から出土した近世の遺物は図示した99点を含め、994点にのぼる。これらの内訳を示したのが第1図である。

在地産土師質土器が309点で31%、在地産瓦質土器が52点で5%、陶磁器が632点で64%である。在地産の土師質土器を器種別にみると、調理具である培塿が199点で64%を占め、甕、皿、擂鉢と続く。瓦質土器は擂鉢、火鉢、鉢の順番に続く。このように在地産の土器は、調理具・貯蔵具・灯明具が大部分をしめる。在地産の土器は、当遺跡の全期間を通してみられる。



第1図 樋の沢久保遺跡出土遺物組成図

陶磁器類は近世の遺物の5分の3を占めている。これらを產地毎の割合で示したのが、第2図である。瀬戸美濃系陶器が60%、肥前系陶磁器が38%で、この他、笠間産と思われる土瓶が出土しているが、產地不明の陶磁器もあった。



第2図 滋の沢久保遺跡陶磁器産地組成図

次に産地ごとに、器種を概観してみる。瀬戸・美濃系陶器の器種は、天目茶碗、擂鉢、碗の類に多く、この他、灯明皿、徳利、盤、仏花瓶、双耳壺等が出土している。各種用途の製品がみられる。肥前系陶磁器では、碗、皿が大部分で、食膳具が中心となる。

上記の遺構や遺物から、江戸時代中頃（18～19世紀）、当遺跡周辺に農民の屋敷の存在が想定される。そして溝や井戸、あるいは土坑もこの屋敷に付属する施設であった可能性が高い。

#### 参考文献

- 1) 瀬戸市教育委員会 「瀬戸市史 陶磁史編六」 1988年3月
- 2) 九州近世陶磁学会 「九州陶磁の編年 -九州近世陶磁学会10周年記念-」 2001年2月

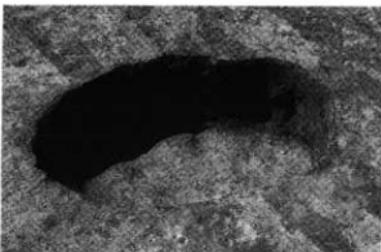
写 真 図 版



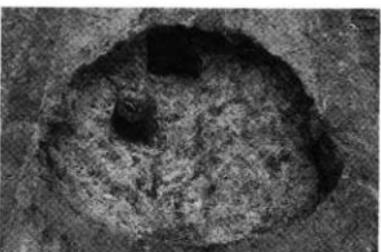
I区完掘状况



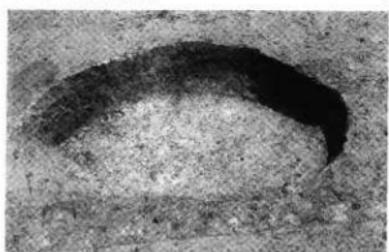
第1号土坑完掘状况



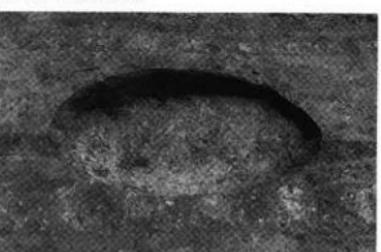
第2号土坑完掘状况



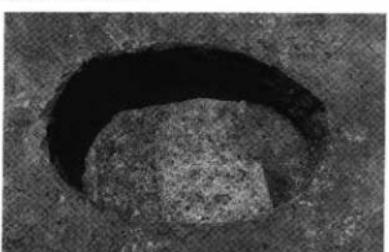
第3号土坑完掘状况



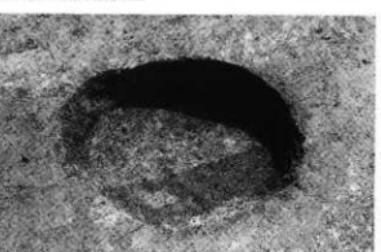
第4号土坑完掘状况



第6号土坑完掘状况



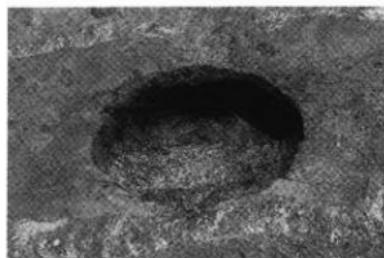
第9号土坑完掘状况



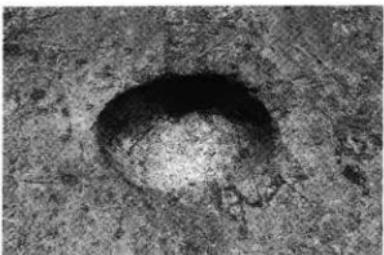
第11号土坑完掘状况



第13号土坑完掘状况



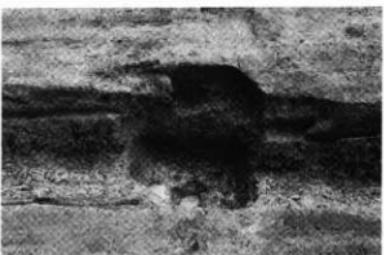
第14号土坑完掘状况



第15号土坑完掘状况



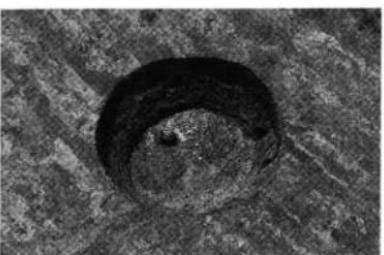
第20号土坑完掘状况



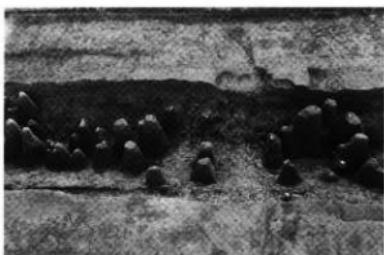
第1号井戸跡完掘状况



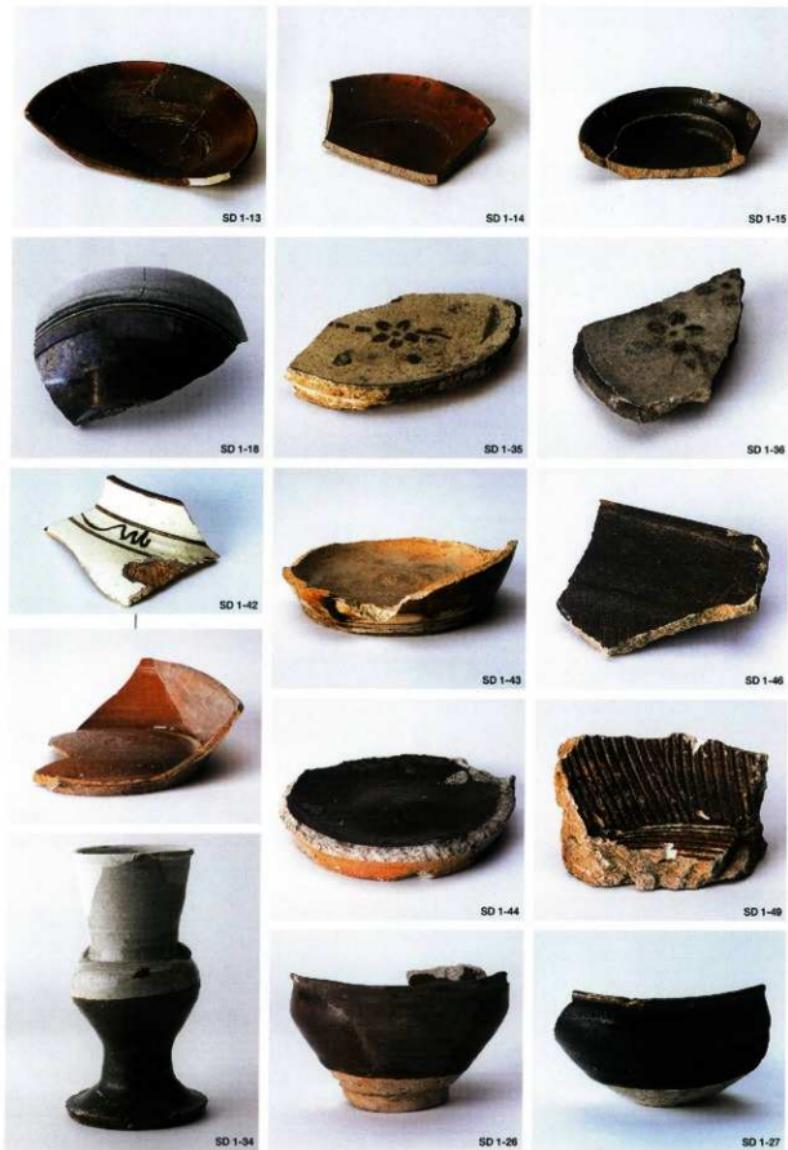
第1号井戸跡遺物出土状况



第2号井戸跡遺物出土状况



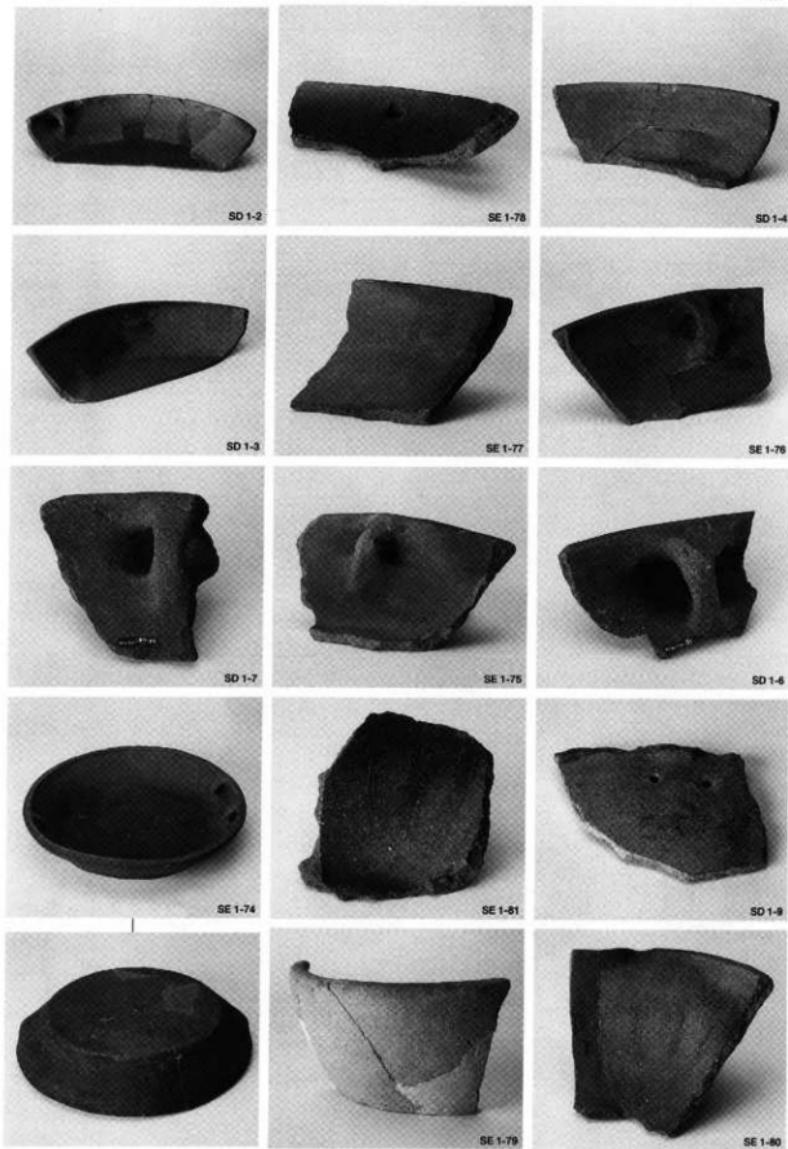
第1号溝遺物出土状况



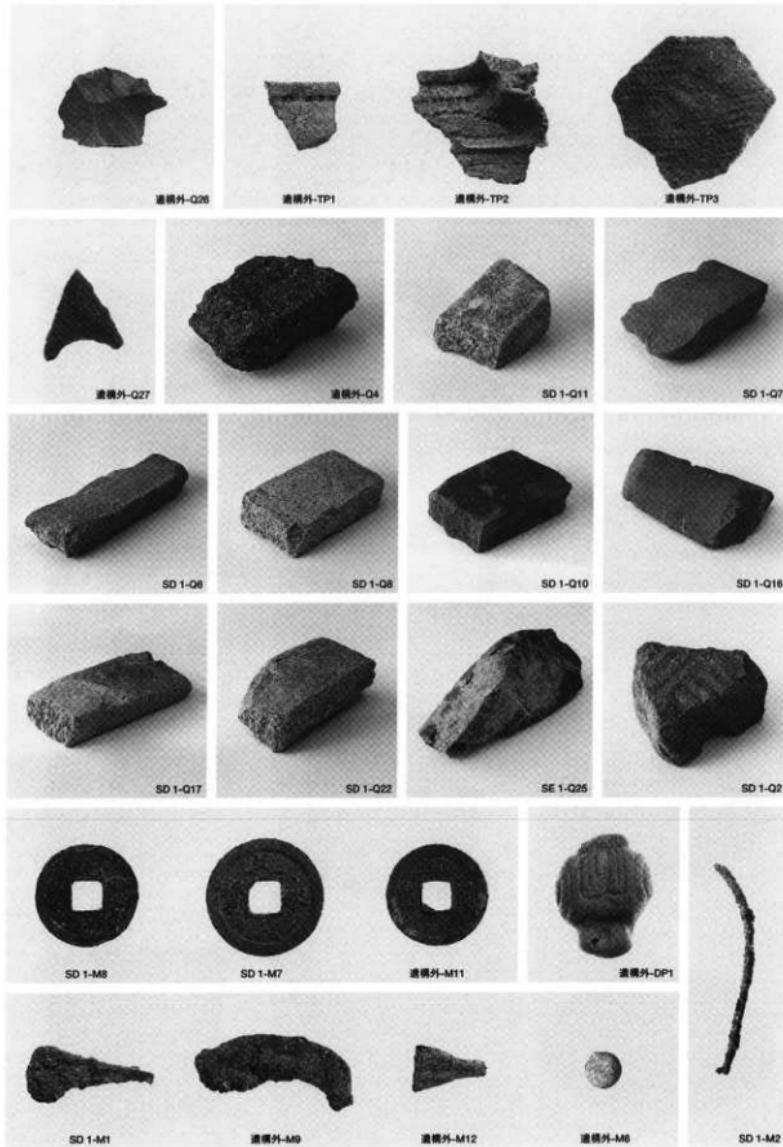
第1号溝出土遺物



第1号溝，遺構外出土遺物



第1号井戸跡、第1号溝出土遺物



第1号井戸跡、第1号溝、造構外出土遺物

茨城県教育財団文化財調査報告第186集

## 櫛の沢久保遺跡

平成14年（2002）年3月20日 印刷

平成14年（2002）年3月25日 発行

発行 財團法人 茨城県教育財団

〒310-0911 水戸市見和1丁目356番地の2

茨城県水戸生涯学習センター分館内

T E L 029-225-6587

印刷 ワタヒキ印刷株式会社

〒310-0012 水戸市城東1-5-21

T E L 029-221-4381